

風水害時の行動

台風や集中豪雨は、市全体に大きな被害を及ぼすことがあります。被害のもととなる、風や雨に対する正しい知識を身につけましょう。

風の強さと吹き方 単位は平均風速 m/秒

やや強い風	10以上 ～15未満	● 風に向かって歩みにくい ● 傘がさせない
強い風	15以上 ～20未満	● 風に向かって歩けない ● 看板が外れはじめる
非常に強い風	20以上 ～25未満	● 何かにつかまっていないと立っていられない
	25以上 ～30未満	● 通常で速度で運転するのが困難になる
猛烈な風	30以上 ～35未満	● 屋外での行動は極めて危険 ● 多くの樹木が倒れる
	35以上 ～40未満	● ブロック塀で倒壊するものがある
	40以上	● 住家で倒壊するものがある ● 鉄骨構造物で変形するものがある

雨の強さと降り方 単位は mm/時間

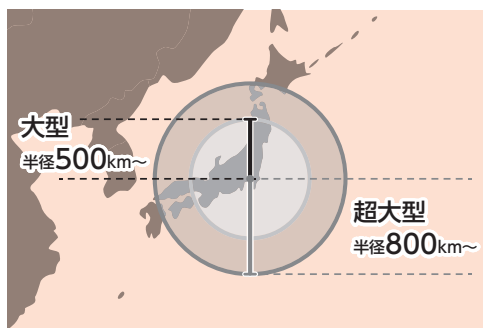
やや強い雨	10以上 ～20未満	● ザーザーと降る ● 話し声が良く聞き取れない
強い雨	20以上 ～30未満	● どしゃぶりの雨 ● 傘をさしていてもぬれる
激しい雨	30以上 ～50未満	● バケツをひっくり返したように降る ● 道路が川のようになる
非常に激しい雨	50以上 ～80未満	● 滝のように降る ● 傘が役に立たない
猛烈な雨	80以上	● 息苦しくなるような圧迫感がある

台風の大きさと強さ

台風の大きさと強さは、強風域（風速15m/秒以上）の半径と最大風速を基準に決められています。

台風の大きさ	強風域の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

台風の強さ	最大風速 単位:m/秒
強い	33以上44未満
非常に強い	44以上54未満
猛烈な	54以上



※ 気象庁「風の強さと吹き方」「雨の強さと降り方」「台風の大きさと強さ」参考



防災気象情報の「河川氾濫」と「大雨」の違いは？

防災気象情報は、「河川氾濫」と「大雨」、そして「土砂災害」に関する情報の3つに分かれています。「土砂災害」はイメージしやすいですが、残り2つ違いは为什么呢？それぞれの特徴をまとめました。

	河川氾濫	大 雨
対 象	大きな河川（庄川・小矢部川）の堤防越水、決壊	中小河川の堤防越水、決壊 低い土地の浸水
発表単位	河川ごと	市町村ごと
考 え 方	流域で降った雨が河川に集まり、水位が上がっている状態	「空から降ってくる雨」による危険
特 徴	①じわじわ川の水位が上がる ②雨がやんでいても水位が上がる	①浸水までのスピードが非常に早い ②内水氾濫（下水道）による浸水の可能性もある
情報の種類	レベル2 氾濫注意報 レベル3 氾濫警報 レベル4 氾濫危険警報 レベル5 氾濫特別警報	レベル2 大雨注意報 レベル3 大雨警報 レベル4 大雨危険警報 レベル5 大雨特別警報

Pick up

キキクルで災害の危険に備えよう！

気象庁の「キキクル（危険度分布）」では、大雨や洪水による災害の危険がどこまで高まっているかをリアルタイムで地図上に表示するサービスです。

詳しい情報はこちら



水害ハザードマップで危険を確認しよう



逃げ遅れてしまったら「垂直避難」

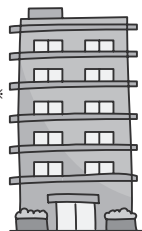
自宅にいるときに
浸水が始まったら

すぐに上の階へ
避難する！



避難途中に浸水が
ひざ下近くまでになったら※

近くにあるビルや高い
建物などに避難する！



垂直避難

※浸水が 50cm を超えた場所での避難は危険です。
水の流れが強いときは 15cm でも危険です。

夜間の避難、浸水の深さがひざ上の際の避難は危険です。

土砂災害時の行動

砺波市では、土砂災害の警戒が必要な区域（土砂災害警戒区域）があります。ただ、土砂災害警戒区域になっていなくても、近くにはけがある場合などは、注意を怠らないようにしましょう。



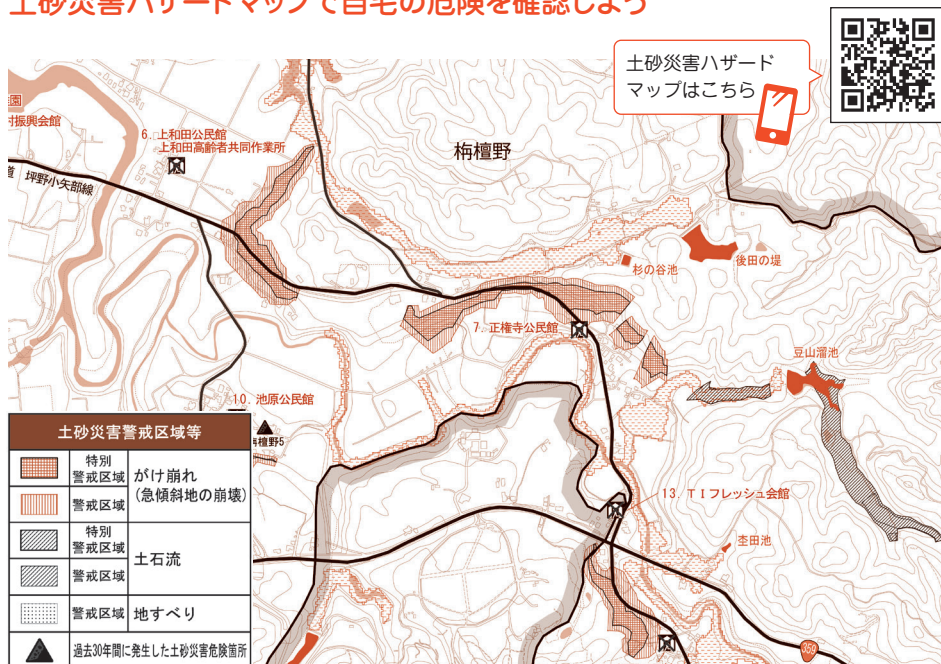
土砂災害警戒区域が自分の住んでいる地区にあるかチェック

砺波市では土砂災害警戒区域にあるエリアに対し、ハザードマップを作成しています。下の表から自宅が該当しているか確認しましょう。

土砂災害警戒区域がある地区

地 区	小 地 区
般 若	安川（山下、正守）、頼成（鴨）、徳万
東般若	宮森
梅檀野	市谷、坪野、正権寺、宮森新、上和田、池原、増山
梅檀山	井栗谷（小中尾、峰、孫子、原野）、栃上、東別所（上村、中村、下村）、栃上新、伏木谷、五谷、寺尾
東山見	落シ、金屋、湯山、湯谷、名ヶ原、小牧、横住、前山
雄 神	三谷、庄

土砂災害ハザードマップで自宅の危険を確認しよう





土砂災害から身を守るには

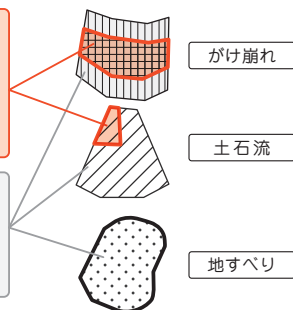
土砂災害は一瞬のうちに大きな被害をもたらします。逃げ遅れることのないよう、雨が強くなる前に早めに避難することが大切です。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害により建築物に損壊が生じ住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域

土砂災害警戒区域

土砂災害により住民の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域



土砂災害ハザードマップで
自宅に色が塗られていない
(土砂災害警戒区域の外にある)

屋内安全確保

外出は控え、
今後の気象情報に注意しましょう。



自宅が
土砂災害警戒区域内にある

立退き避難(水平避難)

市の指定避難所や土砂災害警戒区域の外に住む親戚・知人宅など安全な場所へ避難しましょう。



避難するときのポイント

● 避難は早めに

豪雨や長雨が続いたら、地域で声をかけあって早めに避難しましょう。



● 動きやすい服装で

荷物は必要最小限にし、リュックなど両手が空くようにしましょう。
足元は長靴ではなく運動靴で避難しましょう。



● 逃げ方を確認

土石流はスピードが速いため、流れの向きに対して直角に避難しましょう。



● 逃げ遅れたら

土砂災害警戒区域の外への立退き避難が原則ですが、安全に避難できない場合は、がけなどから少しでも離れた2階以上の部屋へ移動しましょう。



避難の基本を知る

地震に備える

風水害 土砂災害に備える

その他の災害と緊急対応

日頃の備え